

## ハイブリッドイベント「コミュニケーションの未来」3月25日開催 2021年、企業トップのプレゼンテーションがCMになる時代に オンライン上での「立ち話」の可視化で、アイデア創出の輪が広がる

イベントプロデュース事業を行う株式会社グローバルプロデュース（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：光畑真樹）は、2021年3月25日（木）にオフラインとオンラインが融合するこれからのビジネスデザインをテーマにハイブリッドイベント『2021 JAPAN Hybrid Conference -ハイブリッドコミュニケーションの未来-Produced by GLOBAL PRODUCE』を開催しました。

イベントには、来場50名、オンラインは約2000人の方に参加いただきました。



クレーンを含む8台のカメラで現場の臨場感をオンライン視聴者に

### ◆企業トップのプレゼンテーションがCMになる時代がきた

講演は主催者であるグローバルプロデュース代表の光畑より「ハイブリッドイベントの持つ可能性と手法」からスタート。教育学者の齋藤孝氏の「コミュニケーションの今と未来」、元マイクロソフトの澤円氏の「Hybrid時代で輝くためのプレゼン術」と続き、最後にNewsPicks NewSchool校長の佐々木紀彦氏モデレーターのリードでサイボウズ代表の青野慶久氏と光畑による「リアル×デジタル=ハイブリッド型の社会がやってくる」をテーマにしたトークセッションを行いました。

光畑の「ハイブリッドイベントの持つ可能性と手法」では、新型コロナウイルス感染拡大で、企業が開催するリアルイベントが軒並み中止になると同時にオンラインへ移行したことで「どのような新たな価値が生まれたか」を、企業の声と合わせて紹介しました。特に、企業イベントとして希望が多いと予測していたオンデマ



ド配信よりライブ配信での実施がはるかに多く、ライブ配信での実施が 80%であったとの実例を紹介し、生配信での失敗のリスクより「同じ場所を共有できないのなら、同じ時間を共有したい」との声が強かったこと、オンラインではリアルイベントの何十倍、何百倍も「意見集約」ができ、その意見が企業の財産になっていくと話しました。

そして、今後のイベントは、以前のリアルに戻るでも、オンラインに完全移行でもなく、リアルとオンラインの良いところを合わせた、まさにハイブリッドイベントになると予測し「単純に情報を配信するのではなく、リアルイベントの臨場感や心に響く演出《エンターテイメント》とオンラインの情報発信《インフォメーション》を掛け合わせた造語《エンタメーション》の時代になる。その中で、これからは企業のトップのプレゼンテーションが CM になる時代であり、場所や人数に関わらず、つながり、体感できるようになったハイブリッドイベントが企業の情報発信の定番になる」と、2021 年以降の企業と社員、企業と社会のコミュニケーション方法の大きな変化についてプレゼンしました。

#### ◆変化した時代。日本人に必要なのは変化に適合する勇気を持つこと

齋藤孝氏、澤円氏の講演ではリアルもオンラインもコミュニケーションの本質は変わらず、オンラインの手法に適したコミュニケーションや作法、ルールを考え、勇気をもって実践することでオンラインの良さを生かせるとお話いただきました。

齋藤孝氏はこれからのコミュニケーションに必要な 3 つ「判断力、誠実さ、勇気」の中で、日本人に一番大切なのは勇気であること。そのためにはオンラインへの恐れを取り除き、オンラインの場でコミュニケーションが成功する運営能力を高めることが必要と話されました。



そして、澤円氏からは、プレゼンテーションは人数や環境にかかわらず、誰かに何かを伝えることであり、リアルでもオンラインでも本質は何 1 つ変わらない。社会が変化して 1 年、今オンラインに適合出来ていない人は「仕事ができない人」と言えるとも。環境に適した手法を選ぶことは移手段を選ぶことと同じであり、オンラインでのプレゼンもリアルと変わらず、相手が喜ぶ話、聞きたい話を体験を交え、伝える相手が「自分ごと」として捉えられることが大切とお話いただきました。また、オンラインはリアルと違い、参加者が全員最前列で聞いていると同じであり、チャットは若い人からの質問が増えたり、説明資料や参考資料の共有がしやすいなどの、オンラインでプレゼンするメリットと、オンラインだからこそ気を付けないといけない画面での見せ方のポイントをお話いただきました。

トークセッションでは佐々木氏と青野氏、光畑の 3 人で「コロナ禍でもっとも変わったビジネスシーン」「今後のオフライン（リアル）の価値」などをテーマに 10 年前からテレワークを導入しているサイボウズのコロナ禍での変化や「働き方」の面でリアルとオンラインをどのように生かしていくのかなどを中心にセッションしました。



青野氏からは「グループウェアを提供しているサイボウズでも、まだまだオンラインの活用はできていなかったと感じた。会議はリアルよりオンラインのほうが全員顔が見えて、声が聞こえるというメリットがあり、会議以外ではグループウェアの書き込み数が 5 倍になった」との実例をお話いただきました。また、入社していたときはリアル「立ち話」が情報交換やアイデア創出のきっかけになっていたが可視化されていなかった。しかし、リアル「立ち話」がグループウェア上での「立ち話」に移行されたことで可視化され、誰でも「立ち

話」に参加できるようになり、アイデアが広がっているとお話がありました。その中で、グループウェアの活用が成功するポイントは会社の風土が影響し、グループウェアへの書き込み内容に制限がある会社は話が進展せず活用しづらいのではないかと、ポイントとなるコメントもありました。

テレワークが定着する中で「リアルオフィスはどうするか」という内容では、青野氏は「サイボウズはオフィスは減らさない方向。視覚と聴覚はオンラインでも伝わるが、味覚、嗅覚、触覚はリアルでなければ無理。オフィスにレストランなど集まれる場所を作り、密への対策を行った上で、リアルでなければ共有できないコミュニケーションの場にしたい。今後も知恵をしばらくながら良いものを作っていきたい」と、オンラインとリアルのそれぞれのコミュニケーションの利点をより生かす方法にチャレンジしていき、その経験が社外の人へのヒントになるよう、今後も情報公開していくと話されました。

#### <イベント概要>

イベント名称：2021 JAPAN Hybrid Conference -ハイブリッドコミュニケーションの未来-

Produced by GLOBAL PRODUCE

開催日時： 2021年3月25日(木) 16:00~18:00

【イベント特設サイト：<https://www.global-produce.jp/hybrid-conference/>】

#### <『2021 JAPAN Hybrid Conference』講演テーマ>

##### ◆主催者プレゼンテーション

『ハイブリッドイベントの持つ可能性と手法』

株式会社グローバルプロデュース 代表取締役社長 チーフイベントプロデューサー 光畑真樹

##### ◆ゲストセッション

『コミュニケーションカの今と未来』

教育学者 齋藤孝氏

『Hybrid時代で輝くためのプレゼン術』

株式会社圓窓 代表取締役 元日本マイクロソフト業務執行役員 澤円氏

##### ◆トークセッション (NewsPicksBrandDesign コラボレーション企画)

『リアル×デジタル=ハイブリッド型の社会がやってくる』

モデレーター：

NewsPicks NewSchool 校長 / NewsPicks Studios 取締役(非常勤) 佐々木紀彦氏

スピーカー：

サイボウズ株式会社 代表取締役社長 青野慶久氏

株式会社グローバルプロデュース 代表取締役社長 チーフイベントプロデューサー 光畑真樹

#### ◆会社概要

企業名 : 株式会社グローバルプロデュース

代表者 : 代表取締役社長 光畑真樹

本社所在地 : 東京都渋谷区神宮前 1-15-5

代表 TEL : 03-5738-2117

設立 : 2011年10月11日

資本金 : 10,000,000円

売上高 : 20億円(2019年度実績)

従業員数 : 30名(2020年7月時点)

事業内容 : イベントプロデュース事業他

ホームページ : <https://www.global-produce.jp/>

Director's TV : <https://www.youtube.com/channel/UCeIVKw5CYXZZuvFghbEsIGQ>

Enterprise TV : <https://enterprise-tv.jp>

<報道関係者 お問い合わせ先>

グローバルプロデュース広報事務局

担当：柴山 (070-1389-0172)

E-mail : [pr@netamoto.co.jp](mailto:pr@netamoto.co.jp)

TEL : 03-5411-0066 FAX : 03-3401-7788